

出穂期以降は、飽水管理を継続！ 斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう！

1 生育調査結果（7月30日現在）※調査点数：コシヒカリ 12、新之助4

コシヒカリ 茎数：やや少 葉色：やや濃

品種	茎数(本/㎡)		葉色 (SPAD)	
	本年値	指標値比	本年値	指標値差
コシヒカリ	362	95%	35.8	+1.8
新之助	449	102%	34.6	+0.1

・出穂期は、高温の影響により4日程度早まる見込み。

（出穂期：5月5日移植のコシヒカリで7月27～30日頃、5月10日移植の新之助で8月7日頃）

2 水管理

根が養水分を吸収できる状態を維持するため、出穂期25日後まで飽水管理を継続する。田面を乾かすことなく水を入れ替えることで、根の活力維持・健全化を図るとともに地温の上昇を抑える。

※フェーン現象などによる高温・乾燥が予想される場合には、品質低下（白穂、白未熟粒、胴割粒等）を軽減するため、可能な限り土壌が湿った状態を維持できるように飽水管理を継続する。ほ場内に水が行き渡ったら速やかに水口を止める。

農業用水は限りある資源です。地域全体で大切に使いましょう。
かけ流しは絶対にやめましょう。



3 病虫害防除

（1）斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の防除適期は、出穂期3日～7日後頃。

防除適期から遅れずに、残効が期待できる殺虫剤を1回散布する。

※詳細は「新潟県斑点米被害対策パンフレット（新潟県作物研究センターHP）」で確認できますので、ぜひWebで検索してください。

（2）いもち病

コシヒカリ BL 以外の品種は、ほ場をよく確認し、いもち病の病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行う。

（3）紋枯病

粉剤・液剤散布は、株元や葉鞘に薬剤が届くように散布する。

～ 農 作 業 時 は 、 熱 中 症 対 策 を 徹 底 し ま し ょ う ！ ～